

### 3 学生生活の充実度

阿部 真里香

#### はじめに

私は、学生生活の充実度に影響を与えるものは何であるのかについて疑問を持ったので、それを明らかにしていくことにする。まず、度数分布を出す。

		q30[学生生活充実]			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実していた	227	56.5	57.3	57.3
	どちらかといえば充実していた	118	29.4	29.8	87.1
	どちらともいえない	38	9.5	9.6	96.7
	どちらかといえば充実していなかった	9	2.2	2.3	99.0
	充実していなかった	4	1.0	1.0	100.0
	合計		396	98.5	100.0
欠損値	9	6	1.5		
合計		402	100.0		

上の度数分布から、「どちらかといえば充実していなかった」と「充実していなかった」が少なかったの  
で「どちらともいえない」と統合して、以下では分析を進めることにする。

#### 3.1 授業への参加度が高い人は、学生生活の充実度も高い？

学生生活のメインは授業だろうということで、私はまずこの仮説をたてた。そこで、各学生の授業への取  
り組み方について尋ねた問 14 の 5 つの項目と問 30 の充実度との関係を分析することにする。(pp. 220-222  
のクロス表を参照。)

5 つのクロス集計から、授業への取り組み方として充実感と相関が見られたのは、b の「授業中のディス  
カッションに参加する」に積極的な人たちだけであった。したがって、ディスカッションへの参加度が高め  
れば、学生生活の充実度が高いといえる。

ではなぜ、ディスカッションへの参加度だけに充実度との相関が出たのだろうか。

q14a[授業への取り組み方: 教員に質問]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともい えない	
q14a[授業 への取り 組み方: 教 員に質問]	あてはまる	19	6	4	29
		65.5%	20.7%	13.8%	100.0%
	ややあてはまる	62	39	11	112
		55.4%	34.8%	9.8%	100.0%
	あまりあてはま らない	110	52	25	187
		58.8%	27.8%	13.4%	100.0%
	あてはまらない	33	21	10	64
		51.6%	32.8%	15.6%	100.0%
合計		224	118	50	392
		57.1%	30.1%	12.8%	100.0%

p=.640

q14b[授業への取り組み方: ディスカッションに参加]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともい えない	
q14b[授業 への取り 組み方: デ ィスカッ ションに 参加]	あてはまる	46	9	6	61
		75.4%	14.8%	9.8%	100.0%
	ややあてはまる	107	52	14	173
		61.8%	30.1%	8.1%	100.0%
	あまりあてはま らない	62	48	25	135
		45.9%	35.6%	18.5%	100.0%
	あてはまらない	9	9	5	23
		39.1%	39.1%	21.7%	100.0%
合計		224	118	50	392
		57.1%	30.1%	12.8%	100.0%

p<.001

q14c[授業への取り組み方: 授業の予習・復習]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともい えない	
q14c[授業 への取り 組み方: 授 業の予 習・復習]	あてはまる	8	4	3	15
		53.3%	26.7%	20.0%	100.0%
	ややあてはまる	48	28	6	82
		58.5%	34.1%	7.3%	100.0%
	あまりあてはま らない	123	59	33	215
		57.2%	27.4%	15.3%	100.0%
	あてはまらない	44	26	8	78
	56.4%	33.3%	10.3%	100.0%	
合計		223	117	50	390
		57.2%	30.0%	12.8%	100.0%

p=.497

q14d[授業への取り組み方: ゼミ発表の準備]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともい えない	
q14d[授業 への取り 組み方: ゼ ミ発表の 準備]	あてはまる	75	38	11	124
		60.5%	30.6%	8.9%	100.0%
	ややあてはまる	115	58	27	200
		57.5%	29.0%	13.5%	100.0%
	あまりあてはま らない	29	16	10	55
		52.7%	29.1%	18.2%	100.0%
	あてはまらない	4	5	2	11
	36.4%	45.5%	18.2%	100.0%	
合計		223	117	50	390
		57.2%	30.0%	12.8%	100.0%

p=.506

q14e[授業への取り組み方: 授業に遅刻・欠席]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらともい えない	
q14e[授業 への取り 組み方: 授 業に遅 刻・欠席]	あてはまる	25	7	6	38
		65.8%	18.4%	15.8%	100.0%
	ややあてはまる	65	41	18	124
		52.4%	33.1%	14.5%	100.0%
	あまりあてはま らない	83	43	15	141
		58.9%	30.5%	10.6%	100.0%
	あてはまらない	50	26	11	87
		57.5%	29.9%	12.6%	100.0%
合計		223	117	50	390
		57.2%	30.0%	12.8%	100.0%

p=.647

まず、問14cの予習・復習を行っていたかについては、合計の人数をみてわかるように、390人中293人とほとんどの人があまり予習・復習を行っていなかったために、授業中以外での学習が学生生活の充実度とは結びつかない。

反対にdのゼミ発表の準備については、390人中324人と大多数の人が同じようにしっかりと取り組んできたので、発表準備に頑張って取り組むことは、充実度とは関係なく当然のことと捉えられているのではないかと。

aとeは合計の人数をみても特に偏りはないにも関わらず、学生生活との充実度とは関係がない。そこで、私は、教員に質問することや遅刻欠席と、ディスカッションとの大きな違いに着目した。教員への質問や遅刻欠席は、周りの友人には関わりなく一人で行うことだ。それに比べ、ディスカッションは周囲の人と共同で行うことだ。このことから、人との関わりが学生生活の充実度に影響を与えているのではないかと考え、さらに分析を行っていくことにする。

### 3.2 学生生活において、よく他の人と関わっていると充実度が高い？

まず、体育会・クラブ活動によく参加した人ほど他の人と関わりも多く、充実度も高いのではないかと考え、この項目を分析してみた。(223ページの表を参照)

**q21a[学生生活の活動: 体育会・クラブ] 学生生活の充実度とのクロス表**

		学生生活の充実度			
		どちらかと			
		充実して	いえば充実	どちらとも	
		いた	していた	いえない	合計
q21a[学生生活 の活動: 体育 会・クラブ]	よくし た	49 76.6%	11 17.2%	4 6.3%	64 100.0%
	少しは した	11 52.4%	8 38.1%	2 9.5%	21 100.0%
	しなか った	161 53.3%	96 31.8%	45 14.9%	302 100.0%
合計	221 57.1%	115 29.7%	51 13.2%	387 100.0%	

p&lt;.05

上のクロス集計表をみると、よくクラブ活動をしている人ほど充実度も高いように思う。しかし、それほど強い相関ではなく、必ずしもクラブ活動が要因であるとはいえない。さらに、学生全体の約3/4はクラブ活動を行っていない。次に、サークル活動ではどのような結果になるのか分析してみる。

**q21b[学生生活の活動: サークル・同好会]と学生生活の充実度のクロス表**

		学生生活の充実度			
		どちらかと			
		充実して	いえば充実	どちらとも	
		いた	していた	いえない	合計
q21b[学生生活 の活動: サー クル・同好会]	よくし た	109 69.0%	36 22.8%	13 8.2%	158 100.0%
	少しは した	46 45.1%	37 36.3%	19 18.6%	102 100.0%
	しなか った	63 50.4%	43 34.4%	19 15.2%	125 100.0%
合計	218 56.6%	116 30.1%	51 13.2%	385 100.0%	

p&lt;.01

この場合、明確な相関が見られ、サークル活動に参加することが、クラブ活動よりは充実度を上げる要因となっている可能性が高い。では、学校外での他の人との関わりではどうだろうか。学外の人との接点を持つ機会が多いと考えられる、アルバイト経験との相関を見てみることにする。

**q19a[アルバイトの経験: 2年以上のアルバイト]と学生生活の充実度クロス表**

		学生生活の充実度			合計
		どちらかと			
		充実して いた	いえば充実 していた	どちらとも いえない	
q19a[アルバイト の経験: 2年以上の アルバイト]	あてはまる	186	98	38	322
		57.8%	30.4%	11.8%	100.0%
	あてはまらな い	35	19	13	67
		52.2%	28.4%	19.4%	100.0%
合計		221	117	51	389
		56.8%	30.1%	13.1%	100.0%

p=.244

上の表から、アルバイトをすることが学生生活の充実度を左右する要因となるとは断定できない。問19の他の項目との関係をもみてもさらに相関は弱かった。また、アルバイトをすることが、必ずしも仕事で必要なこと以外の人との関わりをもたらすとは限らないだろう。そこで今度は、普段付き合いのある友人にどのような人がいるのかと、学生生活の充実度との関連を見てみる。

問24の各項目と充実度との関連をみると、次の3つに相関が見られた。

**q24b[交際圏: 同学科の先輩・後輩]と学生生活の充実度のクロス表**

		学生生活の充実度			合計
		充実してい た	どちらかとい えば充実していた	どちらとも いえない	
		q24b[交際圏: 同学 科の先輩・後輩]	いる	136	
	64.5%		28.0%	7.6%	100.0%
	いない	91	59	35	185
		49.2%	31.9%	18.9%	100.0%
合計		227	118	51	396
		57.3%	29.8%	12.9%	100.0%

p<.01

q24c[交際圏: 他学科・他学部の友人]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらとも いえない	
q24c[交際圏: 他学 科・他学部の友人]	いる	218	105	39	362
		60.2%	29.0%	10.8%	100.0%
	いない	9	13	11	33
		27.3%	39.4%	33.3%	100.0%
合計		227	118	50	395
		57.5%	29.9%	12.7%	100.0%

p<.001

q24c[交際圏: 正社員・正規職員]と学生生活の充実度のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえ ば充実していた	どちらとも いえない	
q24c[交際圏: 正社 員・正規職員]	いる	164	69	29	262
		62.6%	26.3%	11.1%	100.0%
	いない	63	49	21	133
		47.4%	36.8%	15.8%	100.0%
合計		227	118	50	395
		57.5%	29.9%	12.7%	100.0%

p<.05

どの項目にも共通して、付き合いがある人ほど学生生活の充実度も高いということがわかった。そして特に他学科・他学部の友人との付き合いある人ほど、その傾向がよく表れている。なぜ学科内の友人ではなく他学部、学科の友人がいる方が、充実度が高くなるのだろうか。私は、サークル活動によく参加している人が充実しているという結果があったように、学科内の授業やゼミを通して自然と関係を築くことのできる友人がいるよりも、自ら主体的に行動して得ることができた友人の方が深い関係を築くことができるからではないかと考えた。以上のことから、学生生活の充実度を上げる要因として学内の友人が関係しているということができる。

### 3.3 卒業後の進路満足度が高ければ、学生生活の充実度も高い？

今度は学内での過ごし方とは別に、卒業後の進路と学生生活の充実度との相関をみる。私は、就職活動が多くの学生の大学生活の一大イベントであることを考慮し、満足する卒業後の進路を得られたことが、結果的に学生生活に充実感をもたらす要因となっているのではないかと考えた。

		q29[卒業後の進路満足]			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足	207	51.5	52.1	52.1
	どちらかといえば満足	117	29.1	29.5	81.6
	どちらともいえない	51	12.7	12.8	94.5
	どちらかといえば不満	12	3.0	3.0	97.5
	不満	10	2.5	2.5	100.0
	合計	397	98.8	100.0	
欠損値	9	5	1.2		
	合計	402	100.0		

問29の度数分布をみると「どちらかといえば不満」「不満」が少ないので、「どちらともいえない」に統合する。下の表を見る限りでは、卒業後の進路に満足している人は学生生活にも満足しているといえる。しかし、卒業後の進路に満足しているというのは感覚的な回答であるため、要因は学生生活の満足と同じではない可能性も十分にある。

進路への満足度 と 学生生活の充実度 のクロス表

		学生生活の充実度			合計
		充実していた	どちらかといえば充実していた	どちらともいえない	
進路への満足度	満足	154	43	10	207
		74.4%	20.8%	4.8%	100.0%
	どちらかといえば満足	51	50	16	117
		43.6%	42.7%	13.7%	100.0%
	どちらともいえない	22	25	25	72
		30.6%	34.7%	34.7%	100.0%
合計		227	118	51	396
		57.3%	29.8%	12.9%	100.0%

p<.001

まず、1節でわかったように、授業への取り組み方として充実感と相関が見られたのは、「授業中のディスカッションに参加する」に積極的な人たちだけであった。そこで、それと進路満足度との相関をみよう。

**q14b[授業への取り組み方: ディスカッションに参加] と 進路への満足度 のクロス表**

		進路への満足度			合計
		満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	
q14b[授業への取 り組み方: ディス カッションに参 加]	あてはまる	37	13	11	61
		60.7%	21.3%	18.0%	100.0%
	ややあては まる	95	54	24	173
		54.9%	31.2%	13.9%	100.0%
	あまりあて はまらない	61	43	31	135
		45.2%	31.9%	23.0%	100.0%
	あてはまら ない	11	6	7	24
		45.8%	25.0%	29.2%	100.0%
合計		204	116	73	393
		51.9%	29.5%	18.6%	100.0%

p=.150

この表からはあまり授業への取り組み方と進路満足度との関係はなさそうである。また、2節では、学生生活の充実度には、友人のとの関わりが要因としてあることがわかったので、同じことが卒業後の進路満足に対してもいえるかどうか分析する。同じような結果が出れば、卒業後の進路に満足している人は充実した学生生活を過ごしているということができるとはならないだろうか。

**q21b[学生生活の活動: サークル・同好会] と 進路への満足度 のクロス表**

		進路への満足度			合計
		満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	
q21b[学 生生活 の活動: サーク ル・同 好会]	よくし た	77	55	26	158
		48.7%	34.8%	16.5%	100.0%
	少しは した	53	26	23	102
		52.0%	25.5%	22.5%	100.0%
	しなか った	70	33	23	126
		55.6%	26.2%	18.3%	100.0%
合計		200	114	72	386
		51.8%	29.5%	18.7%	100.0%

p=.353

学生生活の充実度とは違い、サークルに参加をしていたからといって、卒業後の進路満足度が高くなるというわけではないようだ。さらに交際圏についても関係を見よう。

**q24c[交際圏: 他学科・他学部の友人]と進路への満足度のクロス表**

		進路への満足度			合計
		満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	
q24c[交際圏: 他学科・他学部の友人]	いる	191	110	61	362
		52.8%	30.4%	16.9%	100.0%
いない		15	7	12	34
		44.1%	20.6%	35.3%	100.0%
合計		206	117	73	396
		52.0%	29.5%	18.4%	100.0%

p<.05

交際圏に関する項目の中でもっとも関連がある「他学科・他学部の友人」でさえも、充実度の場合ほど強い相関はみられなかった。したがって、卒業後の進路満足度と、学生生活の充実度については相関があるように見えるが、それぞれに別の要因を持っているということになる。以上の分析から、学生生活の充実度は、少し普段とは離れて付き合う友人いるほど高くなるが、満足する卒業後の進路を決めることは、それには関係していないということがわかった。

したがって、卒業後の進路に満足している人ほど、学生生活も充実していたと回答する割合は高くなるものの、進路への満足を説明する要因は、充実度に影響を与えている要因（すなわち、積極的な人との関わり方、しかもゼミや学科の枠を超えたつきあい方）とは別であることがこの分析からわかった。